

関西大学 経済・政治研究所招へい研究者講演会 AMAROK経営者健康あんしんアクション セミナーを開催

セミナーテーマ

「中小企業経営者の健康とアントレプレナーシップ」

当法人は6月7日(水)、関西大学東京センターにおいて、「AMAROK経営者健康あんしんアクションプロジェクト」に関する第1回目のセミナー「AMAROK経営者健康あんしんアクションセミナー」を開催いたしました。



当法人では、AMAROK JAPANと共同で経営者の健康について考える「AMAROK経営者健康あんしんアクションプロジェクト」を昨年末立ち上げました。中小企業経営者が健康で経営を続けられることが最も重要なリスクマネジメントであるという考えのもと、社会貢献活動の一環として取り組んでおり、調査協力者への定期的なアンケートや経営者向けセミナーなどを展開しています。

今回開催した第1回目の「AMAROK経営者健康あんしんアクションセミナー」では、フランスAMAROKの研究協力者で、オランダ・エラスムス大学ロッテルダム校教授のロイ・チュリック氏と、AMAROK JAPAN事務局長で関西大学教授の亀井克之氏を招き、「中小企業経営者の健康とアントレプレナーシップ」をテーマに講演していただきました。亀井氏からは、本年より日本で開始した「中小企業経営者・個人事業主の健康に関する調査」の速報発表も行われました。

経済の発展に影響する経営者の健康

チュリック氏の専門はアントレプレナーシップ論で、主にアントレプレナーシップと経済の関係を研究されています。経済が発展するにはアントレプレナーシップが必要で、そのために経営者が健康であることが重要との自説を持っています。

チュリック氏がその研究を始めたきっかけの一つが、ノーベル賞やアカデミー賞の受賞者と候補者を比較した時、いずれも受賞者のほうが候補者よりも幸福で長生きしているという調査結果です。「努力が報われストレスが少なければ、人は幸せに、より長生きできる。起業家についても同じことがいえるのでは、と考えました」とチュリック氏。

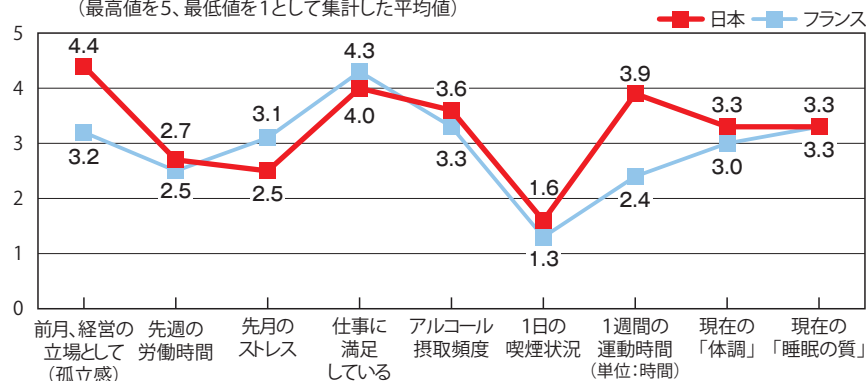
また、もう一つのきっかけとなったのが、起業家のDNAに関するチュリック氏ご自身の研究結果でした。「起業家の子は起業家になる確率が高いのはなぜか？」などの問いを立てた統計調査を行い、起業家になる確率を決定するのは、生物学的要因が4割、環境的要因が6割だという結論を得たのです。まだ生物学的要因となる起業家のDNAは特定できていませんが、それが特定され、ストレスの源泉



ロイ・チュリック Roy Thurik

オランダ・エラスムス大学ロッテルダム校教授。起業家精神、経済における起業家精神の帰結とその原因に焦点をあてた研究を実施し、国際的な学術誌に多数の記事が掲載されている。今回、関西大学経済・政治研究所招へい研究者として来日。

図1 健康関連基本事項に関する平均値の日仏比較
(最高値を5、最低値を1として集計した平均値)



※「1日の喫煙状況」は、最高値を6として6段階で調査・集計

がどこにあるのかわかれば、より多くの幸せを享受してもらうために手助けすることもできますし、自助努力によって幸せになることも可能です。そして幸せになれば、より長く生きることもできるのです。「持って生まれた先天的な要素と、人生で発揮できる可能性についての関係を解明することで、人々がより幸せに、健康になるために役立てていきたいと思っています」(チュリック氏)。

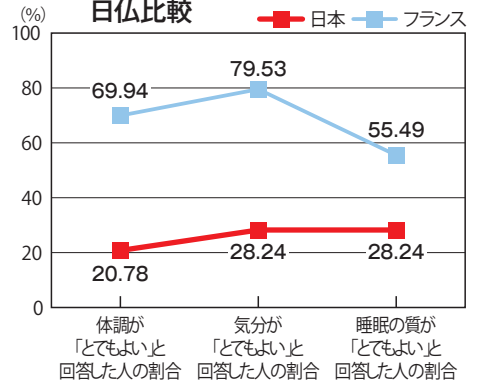
「仕事への満足度」が高い日仏の経営者

チュリック氏に続き登壇した亀井氏は、「AMAROKの出発点も経営者の幸せと健康です。創設者でフランス・モンペリエ大学教授のオリビエ・トレス氏が、ある経営者の死によって、これまで中小企業経営者ならではの苦しみやメンタルヘルスについては誰も目を向けようとしてこなかったことに気づき、AMAROKを立ち上げました」と創設の経緯を説明しました。当初は、中小企業経営者は不安、孤独、ストレス、過重労働などを抱えているという悲観仮説に基づいて調査・研究を開始。しかし結果は、中小企業経営者は大企業の従業員よりも健康で、十分な睡眠がとれているというものでした。トレス氏は、中小企業経営者ならではの悲観的要因と、仕事への喜びや充実感などといった楽観的要因の重さを量る「心のてんびん」が、いつも楽観的要因のほうへ傾いていると分析。AMAROKでは、てんびんがいつもこの状態に保てるようなサポートを目指しています。

さらに今回のセミナーでは、本年より開始されているAMAROK JAPANと当法人の共同研究調査の結果についての速報発表も行われました。「まず調査対象者についてみると、日本の回答人数は255人と、フランスの173人を大きく上回りました。お忙しい中ご協力してくださった皆さまには、感謝してもしきれません」と亀井氏。対象者の属性について、日本はフランスより男性の割合が高く、年齢層も高いことなどが説明されました。

質問調査では、日仏ともに「仕事に満足している」割合は高く、日本人はフランス人よりも労働時間は多いが、「ストレスがたまった」と感じる人の割合は少ないという結果

図2 最高値を回答した割合の日仏比較



などを得ています(図1)。しかし、日本人はフランス人に比べ、体調や気分、睡眠の質が「とてもよい」と感じている割合は非常に低い(図2)。亀井氏はこの点に着目し、健康状態とビジネスにおけるチャレンジ精神とを組み合わせることで見えてくるものを今後探求されていくようです。

「調査は今後も引き続き行われていきますので、ぜひご協力をお願いいたします」という亀井氏のしめくくりの言葉で閉会に。終了後も参加者から講師への質疑が行われ、有意義な会となりました。

当法人は中小企業経営者の健康や幸福、ひいては経済の発展に貢献していくため、本プロジェクトの推進を今後もサポートしてまいります。

AMAROK JAPAN (アマロック・ジャパン)

フランスのモンペリエ大学経営学部教授オリビエ・トレス氏が設立したAMAROK(中小企業経営者健康問題支援機構)の日本支部。AMAROKの活動・研究の紹介や、日本での実態調査に基づく中小企業経営者や個人事業主の健康問題を対象にした日仏共同・比較研究を主な活動としている。



亀井克之(かめい かつゆき)

AMAROK JAPAN 事務局長、関西大学社会安全学部教授、日本リスクマネジメント学会副理事長。専門は経営学、リスクマネジメント論。企業のリスクマネジメントのほか、さまざまな事象にリスクマネジメントのフレームワークを適用した研究を行っている。